

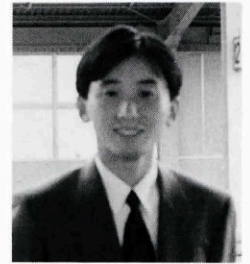


立間敏弘 さん

(湯 免)

わたしのまちづくり

シリーズ②



岡村安彦 さん

(大 竹)

まちづくりは 町民憲章の実践から

環境保健委員を担当する私はこの面からの「まちづくり」を考えてみました。「ゴミを制する者は国を制す」という言葉を随分昔に聞いたことがあります。経済大国となった現在、我々の文明生活も最高水準となり大変に有難いことですが、その結果は環境悪化、ゴミ増大などの「つけ」が廻ってきていることは皆様ご承知のとおりです。我々町民はゴミの自己処理や水切り等で減量に心掛けることは最も大切なことですが、やはりゴミは出さざるをえません。その際、町発行の「ゴミ収集の約束ごと」等を常に念頭におき、規則を守ることが、益々重要になってきます。例えば毎月の空カン回収日には今だにビンなどの不燃物が混っています。また収集日以外の日に出す人、等々。一人の違反者のために皆が迷惑しますが、この場合、もし見かけたら町民同士ですから、その場でルールを教え、注意しあうことが必要だと思えます。

さて、拙文を読み直してみると、なんと町民憲章の主旨そのものだと気付きました。町民として誇りのもてる立派な憲章だと、改めて思った次第です。「まちづくりは町民憲章の実践から」という結論になってしまいました。

ハート(愛) & アート(芸術) のまちづくり

誇れるものが欲しかったこの町に、待望の美術館がオープンした。念願が叶って、さて私に出来ることは……

家族と郷土の自然への愛情を描き続けた香月画伯に倣って、ここが「私の地球、であることに自信を持つことと「人間愛と平和」を希求するこの美術館を多くの人にPRすることだ。そして、世界中の香月ファンをこのまちに呼んで交流を図ろう。情報は発信すれば必ず誰かが受けとめていてくれるし、そこから新しい出会いが生まれる。

また、67km²のこの町全体を大きなアトリエあるいはキャンパスにみだて、みんなが、まちの景観にマッチするよう建物や看板のデザインに配慮し、心地よい空間を生み出す努力をしよう。この精神こそが香月芸術が残してくれた最大の贈り物であり、これを次代を担う子どもたちに伝えていくことが大人の役目だと思う。

この6,825+α人で描き続ける愛情がまちづくりだ。

そしてこの美術館を有するにふさわしい真にハートとアートのあるまちをみんなでつくっていこう。

この町の真価は、私たち自身の進化にかかっている！



「栄養つれづれ草
―情報に迷わない
ための道しるべ―」
山口迪夫著 (株)医歯薬出版
「桜と日本人」
小川和佑著 新潮選書

おとな向

「スーパーワイド版
講談社カラー科学大図鑑」
虫のとり方飼いや
バードウォッチング
・きょうりゅうの世界
・スピードの科学
(ほか九冊) 講談社

こども向

トレンセン図書室より

新刊図書紹介